

大草谷津田いきものの里 自然観察会

谷津田の冬の野鳥入門

藤田英忠（東金市）

日 時：2018年1月21日（日）10時30分～12時 天気：晴

参加者：大人11名、子ども2名 計13名

担当指導員：田島正子 藤田英忠

今冬は例年以上に各地で冷え込み、大草谷津田の野鳥の出現は期待できない状況。また、10時半からの一般観察会であるから、野鳥はこの時間帯はお休みと言ったところ。天気は晴れ。例年は子どもと親たちが双眼鏡を持参して時間前から集まってくるのだが、今年は集まらない。多くは、我が会員のサポーター。

ちょっと下見、と9時ころから田島指導員と回ってみた。その袖の樹木の枝が混んでいる梢に何と大きなフクロウがじっとこちらを見ていた。こちらが肉眼で見えている限り逃げないが、双眼鏡を目に当てたときはスーッと音もなく、藪の中へ飛んで入った。後を追うとそんなに藪中でもないところに、洞を持つ大木があった。たぶんその中に入っただろう。繁殖期も近いので近寄らないことにした。この時期、渡りの猛禽類を見ることはあるが、居つきのフクロウはなかなか見られない。ラッキーであった。フクロウはネズミ、モグラなどが大好きである。ここ谷津田は結構ネズミ、モグラがいるのだろう。フクロウがいれば、きっと同じネズミで特にハタネズミが大好きなフクロウ類のトラフズクもいそう。ハタネズミは谷津田には多い。初夏に孵るフクロウ類の幼鳥は何とも母親を探す奇妙な声なので耳を澄まそう。またこの季節は渡り鳥のフクロウ類である、アオバズク、コノハズク、オオコノハズク、が来るはずだ。このように、猛禽類などがあると、その食の残骸を目にすることがある。残骸を調べてみることも面白い自然観察だ。昆虫類が好きなフクロウは何という種類かな？ 鳥類が好きな猛禽類は？ 魚類が好きなのは？ と おいしい食事から判断する猛禽類？ など話題は来年に。

さて、10時半、子ども一人ずつ連れた若き両親二組だけだった。それでも、まず楽しく賑やかに始めよう！と、野鳥グッズを取り出した。いろんな国の鳥笛を披露。あまり関心なし？では、とハーモニカを取り出し、まず歌を歌おう！という企画を持ち出した。最初に、カザルスの「鳥の歌」をチェロの音色に似せて吹いてみた。なんとなく物悲しい曲で、氣勢が上がらない。今日は寒い！人も鳥も少ない！ハーモニカはさらに日本の唱歌の中の鳥が出てくる曲を吹こうとしたが、観察！という声で歌はやめて出発！

モズ、シジュウカラ、エナガの群れ、メジロ、コゲラ、ヤマガラと騒がしく藪から出てきては湿地の葦原へ餌探しに来ている。それなりに谷津田に出ると羽数は少ないが目凝らし、耳をそばたてるとジ鳴きと、姿がちらほら見える。ヒヨドリ、シロハラ、メジロ、ウグイス、アオジ、田んぼにはセグロセキレイ、ツグミ、とそれなりに早春賦を歌いたくなる野鳥たちだった。

この時期の谷津田野鳥観察入門は、見る事だけでなく歌う、簡単鳥笛作り、奏でる、描く、鬼子母神祭のフクロウ作り、ジ鳴き囀り当て、残骸探し、足跡探し、鳥クイズ、シルエット当て、など工夫してやることを反省にして今日の観察会を閉じた。

本日の出現鳥：ウグイス、アオジ、コゲラ、ヒヨドリ、ヤマガラ、エナガ、シロハラ、モズ、メジロ、シジュウカラ、セグロセキレイ、ツグミ、ハシブトカラス、フクロウを入れて14種